

風土記の丘の花だより³²⁴

今、そしてこれから見られる植物(2026年6月6日)

台風6号のおかげで雨がたくさん降って、山はかなり潤ったことでしょう。草木も喜んでいて思います。これからたくさんの夏の花が咲き始めることでしょう。



資料館の下をくぐって階段を上り切るあたりに真っ赤なアメリカデイゴの花が咲いています。ブラジル原産の木で、江戸時代に渡来したといわれています。日本名は「海紅豆・かいこうず」と言われます。「海を渡って来た、紅色のマメ科の植物」という意味でしょう。でも、余り浸透していないのか、馴染みはありませんね。公園などによく植えられていて、特に暖かい地方でよく見られます。風土記の丘では、なんと、一年に3回も咲きます。ただし、3回目は花数はわずかです。



小早川家の前の坂道沿いに白いクチナシの花が咲いています。「今では指輪も回るほど・・・」こんな古い歌を知っている方もずいぶんと減ったことでしょうね。雨が似合う花のイメージがありますが、それはこの歌のせいでしょうか。さて、話を戻して植物のクチナシですが、漢字では「梔子」などと書きますが、もとは「口無し」で、実ができて熟しても裂けない、口がない ことからこんな和名になったといわれています。それにしてもいい香りの花ですね。



これも雨が似合うイメージの花、アジサイです。小さな花が丸く集まって一つの花に見えます。小さな花と言っても花びらのようなものは花びらではなく、萼(がく)です。本当の花は真ん中にあるポチツとしてしているところです。漢字では紫陽花などと書くので、明るい日向が好きなのかと思いきや、どちらかというと日陰の方が好きな植物です。花の色が土壌の酸性アルカリ性の度合いで決まると言われていますが、はて、本当でしょうか？



梅雨時の花、クマノミズキが白い花を咲かせています。名前に「熊野」が付いていて、和歌山県民としては何だか誇らしい名前の木です。何年か前に和歌山県の田辺市で開催された植樹祭で、天皇皇后両陛下がお手植えになった木の一つです。梅林の近くに大きな木があって、この写真はそこで撮りました。同じミズキ科でも、お馴染みのハナミズキや今よく見かけるヤマボウシなどとは大きく違い、野趣あふれる花ですね。

なお、次回の花だより325号は、6月13日、日曜日の

発行となりますのでご了承ください。